

常警每日新聞

定額一圓五角 零售五分 郵費在內
廣告料五號十二字 第一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行所 常警每日新聞社
印刷所 常警每日新聞社

信仰身の上相談

眞 繼 雲 山

裁判官も死刑囚

【答】佛教では生と死とを二つのものだと見ません。迷ひと悟りとは二つあるとは申しません。悟りの土臺の上に悟りのもつれたものが迷ひだと申します。心佛衆生是三無差別といふのは心の悟つたものが佛であり、その心が迷へば衆生だといふ意味です。同じ筆法でも生と死とは一つの土臺にえがかれた變化でありもつれであるといふ見方です。そのもつれの長いのが長壽であり、短いのが短命であります。長短いづれであるにせよ、一つの土臺の上のもつれであるに過ぎません。十で死ぬものと八十迄生きるとの間に大きな差はなかりたりがあるやうでありませぬけれども、假りにその中間の時間を撤去すれば生死といふ事じつに變りはないのです。

裁判官が殺人犯人に死刑を宣告するときには雲と泥とのちがひがあり、一はいかめしく、一は不仕合せのドン底でありますけれどもさういふ裁判官も遅かれ早かれ死なねばならぬ身の上である點において、矢張り

一個の死刑囚であります。たゞ法廷の死刑囚は期限が確定してゐるのに反して裁判官の方はそれが不明である。これを老少不定の死刑囚といひて不可なく不明なりといふとも死を免れることは出来ません。生きとし生けるもの、大臣富豪より虫ケラに至るまで一人として天より死刑の宣告を受けてゐないものはありません。あなた方お二人の前途に生の光明があるか否かを神ならぬ身の私は存知しませんけれども、遅かれ先きだちつゝ誰も彼れもが墓場への行進を急ぎつゝあるのが

切手を懸めるのはよくない
新しい切手でも一度に四十二萬のバクテリアが舌に附着すると云ふ

ノート

人生のまことのすがたであります。常識的に長き行進（長壽）を幸福に考へ短き行進（短命）を不幸と領知いたしますけれども、佛教の方より申せばその長短共に夢の道中であるといはします。既に夢だとすれば長短によつて禍福を計度するは當ら

す、むしろ惱みなき夢——愉快な夢を見る方が氣が利いてをります。夢だと申したからとて敢へてこの人生を輕視する意味はなく、この夢以外にいづこにとて人はないのであります。生からこの夢の中において、生の

を馳走すとも其の一日の行持を度取せば一生の百歳を行取するのみならず百歳の他生をも度取すべきなり」と申して居られます。言ふところは金じや名譽じやと云ふて百年いきて居たとてつまらん事じやが、しかしその内タツタ一日でもよい悟つて佛となつた日があり得たならばムザ／＼と暮らした百年を取りかへすばかりでなく、次ぎの世の百年をも生かす事が出来ると云ふ教へであります。百年生きるが尊いのではない、その内タツタ一日でもよいから信心に生きることが出来るならそれで永久の生命は得られないのであります。その永生を得る爲めの人々に外ならないのであります。

【朝】すみし汁：せりむきみ
【晝】キヤベツ卷：牛挽肉 豚挽肉 ねぎ キヤベツ
【晚】みそ汁：火どり魚 うぐいす菜 もろこしぞんご

價值を樹立し夢ならぬ眞實の境界、即ち永世不滅の佛の境地を度取しなければなりません。壽命の長短に價値が分れるのではなく、如何に眞實をつかむべきやに意義があるのであり、換言すればこの人世は佛界にいたるべき唯一の足場であり是を踏みはずせば永劫に奈落の黑暗に沈没せねばならぬのであります。この人世を土臺として佛界に轉出し得ば以つて人生の目的は足るのであります。この故に道元禪師は「徒らに百歳生けらんは恨むべき月日なり 悲しむべき形骸なり、たとひ百歳の日月は聲色の奴婢

す。ザ／＼と百年生きする人は多い一日一時間でよい眞實佛になり得る人は少くないのであります。その一日一時間でよい、佛に成り得たならもうそれは不退轉で永久の佛であり、無上道と云ふてこれ以上の結構な身の上はないのであります。

あなた方お二人は餘命の長短を顧慮する必要は少しもありません。只今即時に如何に悟りを開き佛果に登るべきやを念すべきであり既にして登り得ば一切の苦難は即時解消する筈であります。如何にして佛になるべきやを私はこれまで述べてきました。今後も生ある限り佛のお説をお取りつぎいたすのであります。

時計ト蓄音器!

東京音頭 唄 勝太郎
千鳥格子 市丸
丹下左膳 勝太郎
じねじよ 二三吉

其他流行唄各種入荷致しました。

感じの良いい!
客に親切な……

金光堂

電一九五

確實親切は——

正木織物店ノ生命也

絹織物、正木織物店へ

開業三十五週年を祝するため

二割引にて大々的勉強御注文に應ず

御注文ノ時ハ(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス

平町字新町貳十貳番(公園下)

正木織物店

白生地 質織販賣



玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませんか

本會を御利用下さい

直に家政婦を派出します

親切 料金は極めて低廉で

妊産婦の御家庭 お留守 居番

御病人の付添 年寄やお子さんの付添

炊事や 雑用

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話呼六五二)

上原家政婦會

會主 産婆 上原通子

同情袋の外に

▽戸別に寄附を勧誘

▽歳末の貧困者救済

平町役場では来る十五日より一週間の歳末に於ける貧困者同情週間に當つては例年の如く同情袋を各戸に配布して米や現金等の寄附を受ける外に各商店の商品券夫れに商品、理髪券、入浴券、古着類等の寄附を戸別に勧誘して貧困者を救済すべく目下是等の救済を要する者を調査中である

無料診療

巡回日割

平署駐在巡回診療班は近く左記日割りで巡回する
(十八日)鹿島(十九日)箕輪(廿日)永戸(廿一日)川前(廿四日)貝泊(廿五日)荷路夫(廿六日)石住

磐炭のドル箱

綴新斜坑起工式

既報内郷村磐城炭礦會社が工費三十五万圓を投じて着手する事になつた綴新斜坑の起工式は昨日午後一時



巻のトピックス 話題

山さ狩に行くよ——日曜日に校長先生は鐵砲擔いで山さ兎うちに行きました、石田先生も別の方から行きました、石田先生は間もなく一匹うつたので喜び勇んで肩にかついで来ましたらズドン——イテテ……と言つて倒れました、それ

着工した同坑は高板坑に連絡石炭の埋藏量一千萬噸と云はれて居るので明年六月迄に豫定工事が完成すれば同坑のドル箱ともなる新坑なので非常な期待をかけられて居ると

先生方の賞與 本年は一割増

平町各小學校教員の年末賞與金は月棒の六割にて總額二千九百十三圓を算し昨年に氣し一割の増である

第二選手慰勞 平第三小學校では本日午後一時より同校講堂に於いて今年度体育部選手四十名の慰勞

磐中對平商 けふ弓道會

磐中對平商の弓道試合は本日午後一時より平商矢場に於いて開催されたが兩校の出場選手は左の如くである

- | | |
|------|------|
| 磐中 | 平商 |
| 小松佳吾 | 上野榮一 |
| 高款 實 | 本多 秋 |
| 市井三郎 | 志賀謙二 |
| 新妻 守 | 綿貫 勇 |
| 赤津作衛 | 飯塚清美 |
| 瀧上岩男 | 山崎 明 |
| 遠藤景久 | 根木健兒 |
| 高田憲一 | 鈴木金治 |

平町人事

△四丁目二一 半谷壽長氏 (三五)英城縣東茨城郡磯濱町千九細野谷すて(三二)

結婚

うと顔を赤くして言ひましたどうしてつまんないのかミサ子にはわかりませんでした——宮城縣出品

新流行シヨール

今冬の流行を代表する斬新な柄……

ツルヤ

平 四・電話一四〇番

印刷物の御用命は總て印刷日毎警常株式會社
番〇三六話電

貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五二三番

吉田眼科病院

平紺屋町電話六八番

眼科専門

院長 吉田 安雄
醫學士 吉田 久雄

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

喜多流 謠曲 仕舞 白土會
平町町六九 電話一二七番

◇細詳は本會へ御合せ下さる。

雪降る...

例年よりも一週間早い

三坂澤渡方部の山間部落は去る廿九日夜より卅日朝にかけて本年最初の降雪を見たが約三寸程積り例年より一週間早いと

女青總會

期日決定

石城郡聯合女子青年團第三方部の總會期日は来る十五日午前十時より平館に開くと決定したが當日の講師は本縣社會教育主事佐藤庸夫氏である

進學就職

父兄と打合

平第二小學校では来る十二日午後一時より來春三月の尋常科及び高等科卒業生の父兄を招き上級學校入學に關する件並に職業選擇に關する件に就いて種々打合せすると

二千圓横領

電燈社員の公判

仙臺市新河原町生れ目下住所不定電氣器具販賣業山崎辰雄(五)が去る四年五月頃より本六月迄二本松電氣株式會社に雇はれ好間村大字上好間散宿所の集金係として勤務中數百圓に亘り同村長谷川ヤス外二百數十名より集金した電燈料、電力料、扇風機販賣代等を合計二千圓を横領した事件は過般來平區才判所檢事係りの下に取調中であつたが本日業務上横領餘罪として起訴確定したので近日香西判事係り三堀檢事立會の下に公

盗み入質

オーバを

内郷村大字高坂字立野六六四居住無職根本弘(三)は去る卅日磐城炭礦高坂事務所内より社員二名のオーバ二着(時價五十圓)を窃盜して昨日同字の遠藤質屋に入質せんとした處を平署員に檢査され目下取調中である

磐中の送別會

今教諭は今般千葉縣木更津中學校に榮轉また河村教諭

龍生派華道

毎月研究会

池坊龍生派石城郡平支部では今後毎月第一日曜を期し研究会を開く事になり明日午後一時よりマルトモホールに於いて第一回研究会を兼ねて之が發開式を盛大に舉行する事になつたが家元よりは華道の大家吉村華丘氏が

山林を見廻つて

湯の岳の山火事を防止

磐崎村消防組では去る昭和六年より湯ノ岳地内の山火事防止の爲め見廻組を特設し警戒に努めた結果其後一回の火災も見ず同地方林業の發達に好影響を興へたので本日同村小學校で催された同消防組の秋期檢閲に際し植田營林署長より表彰された

磐崎消防表彰

平除隊兵歸郷

四丁目會田右之方高木清一君は豫てより滿洲出征中であつたが此程除隊となり明日午後四時三十八分平驛着下り列車で歸郷する

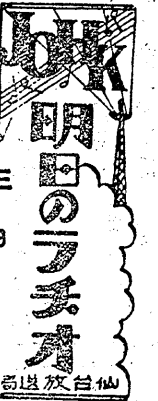
怪しい大風を敷

駐在巡查の覗みたがは

磐崎村字下湯長屋農木田茂大方日雇山形縣南村山郡上野山町字新町生れ鈴木富治(四六)は昨日午後六時頃白米を包んだ大風呂敷を脊負つて同村地内を通行中永山

白米専門の窃盜犯

駐在巡查に舉動不審と睨らまれて檢査され本日平署に押送取調への結果同人は昨年一月中同村木田忠之助方に雇れ中同家の土藏より白米二俵を窃盜し湯本町で拂



明日の天気 今晩も明日も北西の風天氣良し

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 「お話三つ」二桶公櫻井の訣別永島純子二、不思議な力を持つ音楽小倉正美三良心竹屋友子
後六、二五 趣味講座「秋の民謡に就いて」小玉田の民謡に就いて「小玉田村」
後八、〇〇 一中節郎の壽都一梅
が臨席すると

明日の部

後八、二五 長唄吉原雀村家勝五郎外數名仙臺三越ホールより中繼
後八、五〇 歌謡曲「遠刈田音頭」馬場初吉外數名
後八、五〇 獨唱と箏曲「獨唱野萩綾子沙首岬伴奏大阪ラヂオオーケストラ指揮菅原明朗外數曲」
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

平第一校

遠足運動

平第一小學校では十二日頃左の如く全校

モヒ中毒

夢中で無賃乗車

昨日午後四時四十五分平驛着下り列車内に勞動者風の青年が無賃乗車して居たのを係員が発見平署に突出せうとした處本人は猛烈なモヒ中毒患者で歩行も出来かねる様に止むなく行路病人として町役場に引渡した

裁判所より

△平窪村大字中平窪字横枕

明日の部

前九、一〇 營養料理献立「鮎のめず味噌あけ」營養研究所
前九、三〇 第二第八師管下帝國在郷軍人大會實況(仙臺市追廻練兵場より中繼)
前一一、一〇 移殖民講座(八)滿蒙農業移民で成立經濟學博士 永雄策郎
後一、二〇 滿州より
後一、五〇 歌謡曲「淡海節」唱百々菊 三味線すま子
後一、三〇 長唄「連獅子」(京都祇園新地)里勇 福

葉其他

後一、五〇 義太夫「加賀見山舊錦繪」長局の段 淨るり石子 三味線米子
後二、二〇 ラクビー試合實況 早大對明大ラクビー(明治神宮より中繼)
後六、〇〇 子供の時間 童話劇「不思議なお國」出演 北村兒童歌劇協會
後七、三〇 謡曲「正尊」(京都金剛能樂堂より中繼)金剛殿其他
後八、三〇 歌澤 唱歌澤寅佐多花 三味線歌澤寅佐吉
後八、四〇 名作物語「坊つちやん」古川綠浪

平町南町

看護婦急派

の求めに應じます

平看護婦會

電話三〇七番

△雜物 三十以下 委細面談(平町某)
△豆腐賣子 三十五才 賣上の二割五分給す(平町某)
△女中 二十前後 尋卒 給料面談(平町某)
△回職を求める方
△旅館番頭 四十才 高卒 給料面談(北海道某)
△給仕 十七才 中三修 給料面談(平町某)
△外交員 十八才 商一修 給料面談(磐崎村某)
△自動車轉運手 二十三才 尋卒 給料面談(平町某)

銘劍秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第四百四回 徳川家に崇る村正

新六郎再度の手柄

新「己逆賊何處へ逃ぐるぞ
控へろ待てッ」

と聲を掛け、一刀を抜か
うとしたがモウ抜く間がご
ざいませんから新六郎後か
ら致してムズと引組んだ
八「ヤア物々しや」

とあつて忽ち振ほどか
となすと雖も、大勇無双の
新六郎却々八彌が思ふ存分
働かせせん、其内に新六郎
力に任せて双腕を締付ける
と其が爲にシビれたものと
見えて右の手に持つたる所
の血染の一刀をガラリと投
捨てましたからべたと思ひ
尙組敷かんと上になり下に
なり、烈しく挑み合つて居
ります内に、如何なる機か
大力と大力、勇者と勇者が
アハヤと云ふ間に三丈ほど
ある大手の空堀に轉げ落ち
ました、堀の中には様々の
草が生茂つて居るから格別
の痛みはなけれども、只殘
念なるは植村が下に組敷か
れて亂暴者の八彌が上にな
り己に八彌は刀を失ひまし
たから短刀に手を掛けんと
致す、新六郎の危き事風前
の燈火に等しく、一生懸命
に勿返さんともかく中に冷
もよし、通り掛つたのは村

平藏人信形と云ふ岡崎有名
の勇士でありまして、橋の
上で見下してゐる。夫を見
たから新六が
新「オ、新六だ、主殺しの
爲めに殘念ながら組みしか



ら其の槍を突き下さうとす
るけれども、此の松平がう
まく八彌を突けばよし、仕
損つたら肝腎の植村と共に
突殺さなければいけない、
是はどうしたらよからうと
とつをいつ思案に暮れて居
ると又々植村が聲を揚げて
新「松平は大切なる主君
の敵だぞ、どうしても突く
事が出来ないなら某諸共に
突き給へ決して斟酌遠慮に
は及ばん、植村諸共田樂さ
しにさし通し給へ」
と云ふ、其内に大手の橋
の上には追々人々が馳せ集

れた、松平助勢を頼む』
と聲を張上げて申しまし
た。是を聞いて八彌が
八「汝植村を助けると睨み
殺すぞ」
と一眼を以て橋の上を睨
む内に、松平藏人が小者に
持たせた槍を取つて鞘を拂
ふが否や橋を越えて空堀の
脇へ飛んで来て八彌の上を

まりアレヨ〜と云つて居
る内に松平藏人槍を取つて
ニコリ打笑ひ
藏「我決して忠臣植村新六
郎を突殺す槍は持たぬ、新
六安塔致せ」
と云ふが否や突然隙のあ
つたものか松平藏人がニイ
ツと突下す所の手練、遂々
一眼八彌の胸をば突きま

した、堪り兼ねて八彌ヲツ
と返返る所を下より飛退き
新六郎が遂々八彌の首を掻
き落した。借今日の大騒動
追々語り傳へまして岡崎城
を指して馳上る。廣忠公の
御容態如何とお見舞仕る者
引きも切らず上を下へと取
つて返す大騒動。抑々天文
の四年十二月五日、尾州森
山に於て阿部彌七郎をば討
ちましたる時が植村新六郎
十六歳、又天文十四年の三
月九日即ち一眼八彌をさし
留めたる此時が廿六歳の時
彌七郎も八彌も何れも發狂
ではあります其の携へた
る所の刀は村正にして、已
に徳川二代は村正が害をな
した。叔家康公御幼年の時
から様々の御苦勞を遊ばし
お父上御逝去の後は今川義
元の許に人質同様引取られ
ました、丁度六歳の時今川
義元の方に人質として御遣
しになると云ふ時、二度目
の御夫人、之は戸田憲光と
いふ人のお娘であります
此憲光が又々織田家へ内通
して家康公を欺いて駿河に
連れて行く振をして、船で
尾張へ連れて行つて了つた
そして六歳から九歳まで熱
田の天王坊に禁錮されまし
たが、此年織田と今川と和
睦と云ふ事になつて初めて
歸國いたされました。此間
に父上廣忠公は御逝去にな
りました。家康公岡崎にお
歸りになると直ぐ又人質同
様今川家に呼寄せられ弘治
二年まで駿河の府中に居り
まして、此時御年十五歳に
成られましたから、元服を

木村外科科專門醫院

平町五丁目目橋際 自炊入院の便あり 電話三九〇

市原醫院

平町 田町
電話一四四番

耳鼻咽喉科專門

大和田醫院

平町南町
電話一〇〇七

米國製劑皮膚病良藥
レメドール
ヒビ、シモヤケ、ハタケ
ヤケド、キリキズ、タム
子宮病、根切藥、下腹や
腰の痛みをなほす事妙な
り

丹波博士創製セキドメ
宮温湯
子宮病、根切藥、下腹や
腰の痛みをなほす事妙な
り

たんばあめ
うまくてセキがヨクトマ
ル

靈藥ムテキ
ユビハレ、ヤケド、キリ
キズ、淋病、梅毒、乳ハ
レ、すべて化膿したもの
を切らずに癒る

平町古鍛冶町一〇
縣社ノ下 電話四四番

專門
産婦科
花柳病科
婦人科
花柳病科

◎入院隨意

井坂醫院
平町田町 電話五五九番

吸入用酸素純度99%

度量衡
モノサシ
マ
ス
ハカリ

器量計
体温計
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局
電話四〇番

寫真材料一販賣致シマス